



<月2回発行>

2025年12月21日発行

No.1999

会津若松市議会 日本共産党

原田俊広

会津若松市政や市議会、日本共産党議員への
ご意見やご要望を お気軽にお寄せください

事務所

会津若松市南花畠2-1

電話

0242-27-3877 Fax 0242-27-3879

メール

niki-ai@river.ocn.ne.jp

市議会報告

環境教育と防災教育の充実、体育館へのエアコン設置、学校スクリーニング

学校体育館へのエアコン設置については 整備方針をつくり計画的に事業をすすめることを市長が明言

12月4日(木)に開会した市議会12月定例会議は、12月8日(月)からの3日間一般質問が行われました。今回の一般質問は3人以上の交渉会派による代表質問と個人質問があり、日本共産党の原田俊広議員は個人質問として、9日(火)の一番最初に登壇し、本市の学校教育について質問し、いくつかの前進点も明らかになりました。今回は原田議員が行った一般質問の一部概要と答弁の中心点を報告いたします。

義務教育学校と小規模特認校のメリットは發揮できているか

河東学園、大戸小・中学校での実践例について聞きました

原田議員はまず最初に、本市の学校教育の目標と評価について聞いた後、義務教育学校と小規模特認校について、そのメリットがどの程度発揮できているのか、またこの間の教育実践で明らかになった課題はあるのか、具体的に示してほしいと、また今後も義務教育学校や小規模特認校を広げていく検討は行っているのか質しました。

答弁に立った教育長は…



19分

義務教育学校（河東学園）について、9年間の系統立てた教育が進められており、より細かな児童生徒の情報共有や中1ギャップの緩和、前期課程と後期課程の教員による相互乗り入れ授業の実施、さらには前期課程の希望者による部活動への参加などが、義務教育学校ならではのメリットであると答えました。

一方課題としては、職員室のスペースが限られているため前期課程と後期課程の教員が分離しており、日常的な情報共有がしにくいことなどが挙げられると答えました。

小規模特認校（大戸小・中学校）については、特色のある教育の実践や、少人数を生かしたきめ細かな指導が可能であるなどのメリットがあることから、毎年一定の人数が制度を利用し児童生徒が増加しているほか、不登校の児童生徒が登校できるようになり、生き生きと活動している例もみられるところであると答えました。

一方、課題としては、少人数のため人間関係が固定化しやすいことや、生活本拠地が異なる児童生徒が在籍するため、通常の学校に比べて教員による指導上の配慮が必要になることが挙げられると答えました。

義務教育学校や小規模特認校を広げていくのか

また、今後市として義務教育学校や小規模特認校制度を現在よりも広げていくという検討は行っているのかについては、義務教育学校や小規模特認校など、校種によってメリットや課題があると認識しており、それぞれの学校に相応しい種類を選択することが重要。各学校運営協議会で、それぞれの学校に係る課題解消に向けて調査研究や議論等が深められていることから、各学校運営協議会からの相談などの要請に応じながら、寄り添い、共に検討を進めている…と答えました。

地球環境などの大きな社会問題、防災教育もより充実を

次に、特色ある学校教育と環境教育・防災教育の充実について聞きました。

原田議員は、これからの中学校教育の中で、学力とともに人間性を高める教育を行っていく上では、地球環境の大切さ、命の大切さを学ぶ、環境教育と防災教育を今以上に重視し、広げていくことが大事だと訴えながら、市内学校での取組例とともに、環境教育と防災教育の重要性に対する認識を質しました。

環境教育 防災教育 ともに教育に欠かせないもの

これに対し答弁に立った市長は、環境教育も防災教育についても、学習指導要領において取扱いが明確に定められており、年間の教育課

程に明示して各学校で計画的に指導を行っているとして、地域の専門家と一緒に阿賀川の環境を調べることや、県環境創造センター「コミュニケーション福島」を活用するなど、体験を通して、より効果的に環境について学ぶ機会を設けていること、また各学校の災害リスクを踏まえた防災計画を作成し、避難訓練等では、従来の火災に加え、地震や水害を想定した内容も行われていることを明らかにしました。

環境教育と防災教育への認識については、環境教育と防災教育はともに欠かせないものであり、各学校の実態に応じた取組を継続し実施していくことが重要であると答えました。

学校体育館へのエアコン設置を急いで行うべき！

また原田議員は本年6月議会に統いて、児童・生徒の健康と安全のためだけでなく、災害が起きた時の避難所として使用する場合の安全性と健康維持の観点でも、学校体育館へのエアコン設置は急がなければならないと訴えながら、現時点での検討状況と今後の方針について質しました。(右上の体育館エアコン写真は記事とは無関係)



「来年度に整備方針を策定し 計画的に事業を進める」と明言

これに対して市長は、本年度、先進事例についての現地調査や、県内他市の取組状況を調査し、空調設備整備に係る検討事項の洗い出しを行いながら検討を進めてきたとしながら、今後の方針については、整備方針を策定する上で必要な事項の調査を実施し、計画的に事業を進めて行くことを明らかにしました。(右上の体育館エアコン写真は記事とは無関係)



さらに再質問で原田議員は、学校エアコンの設置についての答弁で市長は「整備方針を策定」と言ったが、いつまでにつくるのか質したところ、教育部長が答弁に立って「次年度中の策定」と時期も明らかにしました。

市民の声と議会での論戦が市政を動かしました

学校体育館へのエアコン設置について、ここまで明確に答えたのは初めてです。私が6月議会で体育館へのエアコン設置を求めたときは、必要性は感じている、検討していく…というだけでしたが、この間県内他市や全国的にも設置が進み、議会での論戦や市区長会等からの要望もあってようやくここまで進んできました。市民の声と議会での論戦が市政を動かしたと思います。

誰一人として取りこぼさない学校スクリーニング導入を！

小学校の大規模校1~2校を選んで取り組んでみたい

最後に原田議員は、誰一人として取りこぼさない学校スクリーニングの必要性について改めて訴えながら、今後の方針を質しました。

これに対し教育長は、学校スクリーニングの導入については、児童生徒が抱える潜在的な問題を共有する利点や適切な支援につなげる実効性、教員の負担軽減などについて、先進事例を参考にモデル事業の検討を行っていると、積極的な姿勢を示しました。

また原田議員の再質問に対しては、AIを活用した学校スクリーニングを、小学校の大規模校を1~2校選んで試験的にやってみたいと考えていることを明らかにしました。